

欧州経済を伝える



欧州自動車産業のマルチパワートレイン戦略転換と 日系サプライヤーへの示唆

2026年 6月

FBC Business Consulting GmbH

Germany

<http://www.fbc.de>

目次

エグゼクティブ・サマリー	4
第 1 章 欧州 OEM のマルチパワートレイン転換：何がどう変わったか	5
1-1 EV 市場減速の定量データ	5
1-2 OEM 各社の EV 戦略修正の全貌	7
1-3 マルチパワートレイン化の実態	11
第 2 章 「延命される部品」と「消えていく部品」の仕分け	13
2-1 部品別延命年数マトリクス	13
2-2 HEV 固有部品の新規需要	15
2-3 OEM が示す「部品調達延命タイムライン」	16
第 3 章 欧州 OEM の調達方針変化とサプライヤーへの影響	20
3-1 なぜ OEM の調達方針は変化したのか	20
3-2 Volkswagen Group	21
3-3 Mercedes-Benz Group	22
3-4 BMW Group	23
3-5 Stellantis	24
3-6 Renault Group および Volvo Cars	24
3-7 OEM 調達戦略の比較分析	25
第 4 章 欧州 Tier1・Tier2 再編がもたらす新たな調達機会	26
4-1 欧州サプライヤー業界で何が起きているのか	26
4-2 Tier1 大手の戦略転換	27

4-3 鋳造・鍛造業界の再編	28
4-4 粉末冶金・精密加工分野	29
4-5 シール・ガスケット業界	30
4-6 電装・ワイヤーハーネス分野	31
4-7 欧州サプライヤー再編マップ	32
4-8 日系企業にとっての機会と脅威	33
第5章 日系企業の事業機会評価と参入優先順位	34
5-1 なぜ従来の「EV 向けか ICE 向けか」という分類では不十分なのか	34
5-2 参入機会マトリックス	35
5-3 日系企業に有望な参入パターン	36
5-4 OEM 別優先順位	37
5-5 日系企業への提言	37
第6章 日系企業の欧州参入戦略	39
6-1 欧州市場攻略の基本的考え方	39
6-2 有望な参入シナリオ	40
6-3 OEM 別アプローチ戦略	41
6-4 本章のまとめ	43
主な参考資料・出所	43

エグゼクティブ・サマリー

欧州自動車産業は現在、当初想定されていた「BEV（Battery Electric Vehicle／電気自動車）一極化」シナリオから大きく軌道修正しつつある。2021～2023年には、多くの欧州 OEM が 2030 年前後に BEV が市場の中心となり、内燃機関車が急速に縮小することを前提に巨額投資を進めていた。しかし 2024 年以降、BEV 市場の成長鈍化、中国メーカーとの競争激化、補助金縮小、ソフトウェア開発負担の増大などを背景に、各社はより現実的な戦略へ移行している。

現在の欧州市場で起きているのは「EV 化の失速」ではなく、「マルチパワートレイン化」の進展である。Volkswagen Group、Mercedes-Benz Group、Stellantis、Renault Group、Volvo Cars などの主要 OEM は、BEV への投資を継続しながらも、HEV（Hybrid Electric Vehicle／ハイブリッド車）、PHEV（Plug-in Hybrid Electric Vehicle／プラグインハイブリッド車）、高効率 ICE（Internal Combustion Engine／内燃機関）を併存させる方向へ戦略を修正している。一方、BMW Group は当初から技術中立戦略を維持しており、結果的に市場変化への適応力を示している。

こうした変化は部品需要にも大きな影響を及ぼしている。従来は縮小が予想されていた多くのエンジン関連部品についても、HEV 需要拡大によって需要継続期間が延長される可能性が高まっている。特に高機能シール、精密ギア、燃料噴射系、粉末冶金、熱管理部品などは、HEV および PHEV において重要性が高く、2030 年代前半まで比較的安定した市場が期待される。一方で、低付加価値の汎用 ICE 部品や一部排気系部品については、長期的な縮小リスクが残る。

調達面では、OEM の課題が「EV 部品確保」から「供給能力確保」へ変化している点が注目される。欧州では鋳造、鍛造、粉末冶金、加工などの分野で中堅サプライヤーの撤退や再編が進んでいるが、HEV 需要の拡大によって必要な部品需要は依然として存在している。この結果、一部の高機能部品分野では供給ギャップが発生し始めており、OEM や Tier1 は新たな供給先を模索している。

本レポートでは、欧州 OEM の戦略転換、部品別需要見通し、主要 OEM の調達方針、欧州サプライヤー再編の実態を分析した上で、日系企業にとって有望な事業機会を整理した。その結果、今後の欧州市場では「EV 向けか ICE 向けか」という単純な区分ではなく、「マルチパワートレイン時代において必要とされる技術かどうか」が事業判断の重要な基準になることが明らかになった。

また、本レポートは単なる市場予測にとどまらず、主要 OEM ごとの調達方針の違い、サプライチェーン再編の方向性、部品分野別の事業機会を整理している点に特徴がある。欧州 OEM の戦略転換は、日本企業にとって脅威であると同時に新たな参入機会でもある。特に高機能シール、精密ギア、熱管理部品、粉末冶金部品などは、欧州サプライチェーン再編と供給ギャップ発生 of 双方から恩恵を受ける可能性が高く、今後の日系企業にとって有力な参入対象分野になると考えられる。本レポートが、欧州自動車市場の構造変化を見極め、中長期の事業戦略を検討する際の参考となれば幸いである。